

津波高の公表後の対策は

避難放棄者を出さない



議員 岩義 いゆよし 藤本 ふじもと

じる。情報は地域担当や、色々な方法で住民に知らせていく。

問 特定避難道（車でも避難ができるように、電柱、ブロック塀、液状化等の対策された道路）が必要。特に万行から浜ノ宮までは鉄道があり高台までの距離もある。避難困難者対策として、「ノアの方舟（救命艇）」の設置は。また、新たな浸水区域の避難道は考えているか。

答 大西 町長

車や避難艇の活用など新たな手法、技術も排除の論理を用いず積極的に検討する。多くの避難困難地域がある大方地区は、幹線避難道の設計を考える。住民と道路構造も協議していく。新たな浸水区域は地域担当で対応する。

問 3月31日、5月10日の全国一の津波高34・4mと震度7という公表をうけて、黒潮町の総合対策について町長の考えは。また、町の考えや計画を早く、広く、色々な方法で住民に知らせるべきでは。

答 大西 町長

今回示された数値に対応するには見直す範囲が相当広い。基本的な考えは国と一致。重点緊急施策は避難放棄者を出さない防災教育、防災に資する環境整備、事後対応について事前にできるだけ対策を講

問 新庁舎の造成設計は少しでも高くする考えはないか。

答 松田 総務課長

高くすると住民の利便性が悪くなるので、今後発表されるデータを基に考える。

問 新たな津波高予想を受けて新消防庁舎位置変更は考えられないか。

答 大西 町長

現位置でと考えている。

問 詳細な標高マップ（地図）作成と標高を毎日の生活の中で意識していただくために道路への標示をすべきでは。

答 松本 情報防災課長

住民要望が多いので、標高50m以下で一筆ごとのマップを作成する。道路への表示も行う。



県道改良

岡本大方線は

本年度から開始

問 県道岡本大方線のダケ山付近は狭く非常に危険だが早期改良の働きかけはしているか。また、見通しは。

答 武政 まちづくり課長

本区間は非常に狭く、前は川、後ろは山で特に改良が急がれる箇所と認識している。本年度河川変更用地測量をし、本体工事は来年度となる。今後も早期完成に向け働きかけしていく。

高齢者対策

見守り ネットワーク

今後検討をする

問 全世帯に導入している光ネットワークを活用して、人感センサーで単身高齢者の24時間見守りができないか。

また、郵便局や運送業者等と協定を結び安否情報を報告していただき、現在実施して

いる情報と併せて一括して管理できないか。

答 宮川 健康福祉課長

高齢者の見守りの対策としてIT技術は有効と考えており検討していく。郵便局や農協、企業団体と協議し充実させる。

情報は現在、一括してないが管理活用できるように考える。

【早期完成を待たれる、県道岡本大方線】

